

2018年4月
学長 村上雅人

学修成果の質保証へ向けた大学方針
－単位の実質化の推進－

1. 学修成果の質保証の背景と目的

世界の高等教育改革において、大学は「何を教えたか」ではなく、その教育によって「学生が何を学んだか」すなわち学修成果を重要視することが求められています。また、現在、グローバル水準の教育レベルを維持するため、多くの大学が教育ならびに学修成果の質保証に取り組んでおり、芝浦工大も大学全体で推進しています。

資源に乏しい日本は「科学技術立国」を国是としていますが、それを支える理工学人材は、常に世界を意識する必要があります。そして、ボーダーレスという国際社会にあって、日本が今後も輝き続けるためには、世界に誇れる技術を磨くとともに、他国と協調して、互いを高める努力をすることが必要です。芝浦工大は、学生と教職員が世界に目を向け、「世界に学び、世界に貢献する理工学人材」を育成する場としたいと考えています。

2. 単位の実質化の推進

大学のグローバル化が進展する中で、海外の連携大学と単位互換を進める際などに、国際水準の「単位の実質化」が求められています。

日本では、学生の学修時間が短く、授業時間外の予習復習を含め45時間で1単位とする考え方が徹底されていないことが問題とされています。

国際通用性という観点からも、「単位の実質化」を通して、学修成果の質保証を推進する必要があります。そのためには、授業科目数の適正化を含め、教育カリキュラムの見直しを常に行い、教育のPDCA展開を着実に回すことによって日本を支える理工学人材育成を行うことが必要となります。

具体的には、大学の人材育成目標を達成するためのカリキュラムを設計するとともに、学生が十分な学修時間を確保できる余裕のあるカリキュラム構成とし、1日に履修する科目数と半期に取得できる単位数の適正化を図ります。

以上の方針にしたがい、工学部とシステム理工学部では2019年度よりカリキュラムの大幅改定を予定しております。また、他の学部においても順次学修成果の質保証に向けた単位の実質化を推進することとしています。

以上